

ナシのミヤコカブリダニに対する主要殺虫剤の影響

福島県農業総合センター 果樹研究所病害虫科

1 部門名

果樹－ナシ－病害虫防除

2 担当者

川口悦史・吉田昂樹・荒川昭弘

3 要旨

ハダニ類の有用な土着天敵であるカブリダニ類を保護するためには、防除を行う上で殺虫剤の影響を把握することが重要である。このため、ナシのミヤコカブリダニ果樹研究所個体群に対する主要殺虫剤の感受性検定を行った。その結果、コロマイト乳剤 1000 倍、モスピラン顆粒水溶剤 2000 倍及びハチハチ乳剤 1000 倍は比較的影響が大きく、これらの殺虫剤を使用しないことが土着天敵保護に重要である。

(1) ミヤコカブリダニ果樹研究所個体群に対するナシの主要殺虫剤の感受性検定(室内試験)を実施した。

(2) 雌成虫の死亡虫数で判断した結果、コロマイト乳剤 1000 倍、モスピラン顆粒水溶剤 2000 倍、ハチハチ乳剤 1000 倍は影響が大きいことが明らかになった(表1)。

表1 ミヤコカブリダニ果樹研個体群に及ぼす殺虫剤の影響(2016年)

供試薬剤	希釈倍数	供試雌成虫数 (合計)	処理2日後の 雌成虫 補正死亡率%	影響評価
ファイブスター顆粒水和剤	2,000倍	47	0	◎
スプラサイド水和剤	1,500倍	44	0.1	◎
ウララDF	4,000倍	46	2.2	◎
ダニサラバフロアブル	2,000倍	45	2.2	◎
バリアード顆粒水和剤	4,000倍	48	2.2	◎
エクシレルSE	2,500倍	45	2.4	◎
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	47	4.3	◎
コルト顆粒水和剤	3,000倍	47	4.3	◎
アプロードフロアブル	1,000倍	45	4.8	◎
ダーズパンDF	3,000倍	48	5.1	◎
スカウトフロアブル	2,000倍	45	5.3	◎
ピラニカ水和剤	1,000倍	45	11.6	◎
ディアナWDG	10,000倍	45	18.1	◎
ディアナWDG	5,000倍	46	23.8	◎
コテツフロアブル	2,000倍	48	25.0	◎
コロマイト乳剤	1,000倍	47	42.5	○
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	47	52.7	○
ハチハチ乳剤	1,000倍	48	100	×

※影響評価は日本バイオリジカルコントロール協議会の評価基準

◎: 死亡率0~30%、○: 30~80%、△: 80~99%、×: 99~100%(室内試験)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 28 年度
- (2) 研究課題名 土着天敵利用技術の確立試験
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料